

平成17年度 岐阜県高等学校総合体育大会バスケットボール競技
兼東海・全国高等学校総合体育大会岐阜県予選会
2日目:平成17年5月28日(土)
会場:岐阜総合学園高校・岐阜農林高校

男子の部

<審判>

Aブロック決勝	岐阜総合	109	$\begin{bmatrix} 26 - 12 \\ 25 - 17 \\ 30 - 9 \\ 28 - 9 \end{bmatrix}$	47	中津	古田憲司・清水潤
Bブロック決勝	中津川工	89	$\begin{bmatrix} 22 - 15 \\ 15 - 22 \\ 26 - 14 \\ 26 - 30 \end{bmatrix}$	81	岐南工	下村勝彦・山田祐治
Cブロック決勝	美濃加茂	77	$\begin{bmatrix} 24 - 17 \\ 18 - 19 \\ 20 - 20 \\ 15 - 14 \end{bmatrix}$	70	斐太	松野瑞穂・後藤慎二
Dブロック決勝	岐阜	82	$\begin{bmatrix} 23 - 21 \\ 26 - 13 \\ 12 - 25 \\ 21 - 9 \end{bmatrix}$	68	岐阜農林	増田博徳・田中昭博
決勝リーグ	岐阜総合 (1勝)	94	$\begin{bmatrix} 23 - 13 \\ 21 - 10 \\ 25 - 15 \\ 25 - 15 \end{bmatrix}$	53	中津川工 (1敗)	室谷伸治・相宮俊郎

第1ピリオド、岐阜総合1-2-2ゾーンプレス、中津川工マンツーマンでスタートする。岐阜総合は持ち前のスピードある攻撃で次々にシュートを決め、開始からリードを奪う。中津川工も田口の3点シュート、ドライブなどで対抗するが、岐阜総合の勢いが上回り10点リードをつける。第2ピリオド、中津川工は2-2-1ゾーンプレスを仕掛けるなどして、一進一退の攻防が続いた。しかし、岐阜総合は杉本が要所で3点シュート、ドライブを決め、さらにリードを広げ44-23で前半を終える。

第3ピリオドに入ると岐阜総合は2-2-1ゾーンプレスを仕掛けて相手のミスを誘い、赤座、坂下、杉本が次々とシュートを決め一方的な試合展開となる。第4ピリオド残り5分にはベンチメンバーを出場させる余裕を見せ、94-53で岐阜総合が決勝リーグ1勝目を飾った。中津川工も小川、水野がシュートを決めるが、相手の速い攻撃を止めることができなかった。(宮崎泰彦)

決勝リーグ	美濃加茂 (1勝)	86	$\begin{bmatrix} 29 - 14 \\ 25 - 18 \\ 18 - 19 \\ 14 - 12 \end{bmatrix}$	63	岐阜 (1敗)	小牧秀則・棚橋英一
-------	--------------	----	--	----	------------	-----------

美濃加茂は1-2-1-1のゾーンプレスから2-1-2ゾーン、岐阜はマンツーマンディフェンスでスタートする。立ち上がり両チームともミスが続いたが、美濃加茂は熊澤の2本の3点シュートで流れをつかむと、楯の3点シュート、桂川のドライブ、伊藤のゴール下と多彩な攻撃を見せる。対する岐阜も瀧の3点シュート、平田、河瀬のポストシュートで応戦する。第2ピリオドに入ると美濃加茂は1-2-1-1ゾーンプレスで隙のないディフェンスをみせ、54-32と大量リードを奪って前半を折り返す。

後半に入っても、美濃加茂はリバウンドを奪うと確実に速攻につなげて得点を伸ばし、前半の点差を守りきって決勝リーグ1勝目をあげた。岐阜も加藤のポストにボールを集め確実に得点に結びつけたが、前半の失点が大きすぎた。(安藤聡)

女子の部

<審判>

Aブロック 決勝	岐阜女子	162	$\begin{bmatrix} 56 - 8 \\ 34 - 7 \\ 33 - 4 \\ 39 - 12 \end{bmatrix}$	31	大垣東	岩永英夫・杉山晴士
Bブロック 決勝	加茂	68	$\begin{bmatrix} 14 - 11 \\ 15 - 6 \\ 21 - 23 \\ 18 - 10 \end{bmatrix}$	50	多治見西	小野卓也・赤石恵美子
Cブロック 決勝	関商工	49	$\begin{bmatrix} 14 - 10 \\ 9 - 13 \\ 15 - 9 \\ 11 - 15 \end{bmatrix}$	47	高山西	神山元秀・浅野和道
Dブロック 決勝	県岐阜商	80	$\begin{bmatrix} 28 - 14 \\ 20 - 13 \\ 21 - 17 \\ 11 - 16 \end{bmatrix}$	60	岐阜総合	高野春見・津田健介
決勝リーグ	岐阜女子 (1勝)	108	$\begin{bmatrix} 38 - 6 \\ 24 - 6 \\ 25 - 4 \\ 21 - 3 \end{bmatrix}$	19	加茂 (1敗)	早野宏樹・長屋 貴

高さスピードに勝る岐阜女子は、激しいディフェンスでプレッシャーをかけボールを奪うと、速攻を仕掛け、王、服部、安井が次々に得点を決めていく。加茂は堀内を中心にボールを運ぼうとするが、岐阜女子の早い仕掛けに対応できず、シュートに持ち込めない。第1ピリオドで38-6と完全に主導権をつかんだ岐阜女子はベンチメンバーを全員出場させるが、ディフェンスの激しさは変わらず点差は開く一方。

結局、鉄壁のディフェンスで相手を19点に抑え込んだ岐阜女子が大差で勝利し、1勝目をあげた。加茂も堀内が奮闘するが、実力の差は如何ともできなかった。(田中昭博)

決勝リーグ	県岐阜商 (1勝)	100	$\begin{bmatrix} 21 - 17 \\ 20 - 13 \\ 29 - 7 \\ 30 - 18 \end{bmatrix}$	55	関商工 (1敗)	小泉純子・細井恒樹
-------	--------------	-----	---	----	-------------	-----------

県岐阜商はハーフコートマンツーマン、関商工はオールコート2-2-1ゾーンでスタートする。序盤は両チームともターンオーバーが多く、互いにリズムに乗れない。県岐阜商は柴田、小野島、小倉のシュートが決まり始め、次第に点差をつける。関商工は酒向を軸に攻め入るが、せっかく得たフリースローが決まらない。第2ピリオドに入ると、県岐阜商は相手ディフェンスの足が止まりだしたところで、高いリバウンドから次々に速攻を決め、松永の3点シュートも決まり、前半で41-30とリードを奪う。

後半に入っても県岐阜商はオールコート2-2-1ゾーンプレスからボールと奪うと、速い攻撃から小倉、高橋(美)、林らが次々とシュートを決めて試合を決定づけ、100-55で快勝し、決勝リーグで1勝をあげた。関商工もディフェンスをマンツーマンに変えるなどし、粘り強い守りを見せるが、相手の高さ、速さを打ち破るまでは至らなかった。(井口貢志)